

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム やすらぎ東古松
日付	平成19年3月13日
<b>評価機関</b>	特定非営利活動法人 ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験9年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験6年 居宅支援事業所介護支援専門員経験6年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

## 外部評価の結果

<b>講評</b>	<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>「此処に来ると歩けるようになるからと言われて来ました。それで、本当に歩けるようになったんです。これを通して…」さんは、嬉しそうに傍らの手押車を指差す。利用者6人の小さな世帯を、フリーの社長も交えて一対一に近いお付き合いをしている。午前と午後の散歩は雨等の日以外は欠かす事がない。今朝もこの冬一番の冷え込みにも関わらず、皆さん、意欲満々でお出掛けだ。良い季節には途中の公園で日向ぼっこ、近所の人とのお喋りもあり、スーパーマーケットやペットショップにも入らせてもらう。ケアプランの本人や家族の意向の中にも「散歩に参加して、いつまでも元気で過ごしたい」という願いが多く見られ、実現している。散歩から帰ると手洗い・うがいを済ませて、「さあ、今日は何をしますか?」の職員に「百人一首」「私はパズルがやりたい」ととんで声があがる。管理者のかつての仕事の経験を生かし、公文のパズルやタングラム・百人一首やトランプ・布を使った小物作り等、手先と頭を使うプログラムを一杯準備している。利用者の皆さんは、意欲的に挑戦して、楽しんでいる。百人一首では、今日誕生日をしてもらうさんの札が一番多く皆に祝福してもらったし、パズルの人は私でも難しいなと思われるのを完成させていた。「この人は、すごいんよ」とか「あの方は、いつもありがとうと言ってくれて、気持ちがいいんよ」等、利用者同士がお互いに良い点を誉め合ったり、労りあったりする姿も微笑ましい。「もう、何も出来ず、世話になるばかりじゃ。役立たずになって恥ずかしい。でも、皆によろしくもろうて、有り難い事じゃ」こんな感謝の言葉が、いっぱい聞かれる。グループホームというより「あたたかい家」となっている。</p>
特に改善の余地があると思われる点	<p>次のような提案をした</p> <p>リビングルームで、大きな場所を必要とする行事や交流を実施しにくい事を逆手に取って、保育園の訪問をさせてもらったり、観劇に行く等、一つでも多く外に出掛ける支援を考えていけば、心躍るチャンスが増えるのではないのでしょうか。</p> <p>運営推進会議の有り方を工夫する等、今以上に地域との交流を深めて頂きたい。このホームの認知症ケアの有り方を近隣の人々にもっと多く理解してもらい啓発に努めて欲しい。</p>

## I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>このグループホームの最も大きな柱となっている事は「自分の親を、安心して任せられる家にしたい。職員が寄り添う時間をたっぷりとり、行き届いた介護を提供し、さらに、心身の状態をより良い水準に引き上げたい」という目標だろう。</p> <p>今日はたまたま2人の利用者の誕生日だったので、寿司御膳で旅館に出てくるようなご馳走の上にケーキまで頂いたが、管理者が付いている3年日記の献立記録には驚いた。食材まで丹念に記録されており、一日30品目以上は取れているだろうと思われる食生活の充実ぶりは、心身機能維持の働きかけと共に、このホームの大きな特徴だろう。</p> <p>また、職員は利用者一人ひとりの希望を出来るだけ叶えたいと願っている。春・秋には、緑道公演を散歩して近くのレストランでお食事したり、雨の日に思いついて、イトーヨーカ堂にお出掛けして、ついでにお昼は外食となることもある。「おばあちゃん、いいなあ。家に居たら、そんな事出来んの」と家族は喜んでくれると言う。</p>		

## 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>施設と言う感じではなく、どちらかと言うと一般のお家に近い雰囲気だ。表から見た時も、グループホームとは思えず、車で通り過ぎてしまったくらい。玄関やリビングルームもこじんまりとした空間が、より家庭に近いものを感じさせる。職員はいつでも利用者の動きや声、気配に気付き、素早い対応が出来ている。密着度が強いだけに、利用者の心理的負担感も思いやる記録も見られ、きめ細かな配慮も感じられた。</p>		

## ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

## III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>「自分で出来る事は自分で行い、皆さんに迷惑をかけないように、転ばないように気をつけて、皆さんと楽しく過ごしたい」「この年になったら、美味しいものを食べて、みんなに甘えて暮らしたい」こんな利用者一人ひとりの思いや、今の力をしっかりと受け止めて、なお「ここで生活が本人にとって幸せな事だろうか?私達としている事が、本人の負担になっていないか?本人にとって心から安らぐ場になっているだろうか?」等と、職員はいつも検察しようとしている。その人の表情に気を配り、笑い声やしぐさにも心を配っている。特に日中は殆んど全員リビングルームで過ごすので、ほんの些細な気持ちの高ぶりや沈み込みにも気付きやすい。そんな距離感が丁度良いあんばいとなっている。</p>		

## IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>管理者・職員は利用者一人ひとりを心から大切に思い、家族もこのホームを信頼し頼りきっている感じがする。管理者は、いつでも家族と連絡を取れる体制をとっており、何でもよく電話連絡をし合い、理解し合っていると言う。家族の人・地域の人達からの差し入れも多く、こういった信頼関係は、何事にも変え難い。ホームの職員達の日々の努力の積み重ねがあるからだろう。</p> <p>また、会議録ノートによれば、ケアカンファレンスでは、一人ひとりの利用者のほんの些細な変化を取り上げて話し合っているし、リスクマネジメント会議やヒヤリハット・事故再発防止会議等では、より良いケア目指して、真剣な話し合いがなされているようだ。</p>		